



平成19年3月

号外

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区1-11-1
電話03-3595-9988(代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

政治とは生活である。

浅野史郎 東京都知事選予定候補への支援を決定

民主党東京都連は3月8日の常任幹事会で、東京都知事選挙に出馬表明をした浅野史郎前宮城県知事(59)を支援する方針を正式決定しました。

これに先立ち、円より子東京都連会長ならびに東京都連幹部は、3月5日夕に民主党本部で小沢一郎代表と会談し、浅野史郎氏を支援する方針を確認しました。会談では、浅野氏から円より子都連会長へ『支援して欲しい』との電話があったことを受け、都連幹部と協議し、独自候補は擁立せず浅野氏支援をする方針を固めたことを、代表へ報告。小沢一郎代表は、「石原都政に終止符を打つため、浅野さん支援をすることも大事な選択肢だ」と述べ、浅野史郎氏を支援する方針を了承しました。



また、浅野史郎氏は、3月6日夜に都議会民主党、3月7日には東京都連の会議へ出席し、国会・都議会議員および総支部長を前に正式に支援を要請。引続き党本部を訪れ、小沢一郎代表、鳩山由紀夫幹事長、菅直人代表代行と会談し、民主党の支援を改めて要請しました。

浅野氏は「東京を変えねばならない」と決意を述べ、小沢代表は「頑張りましょう」と支援を約束しました。

前宮城県知事 浅野史郎氏 都知事選挙へ出馬表明

浅野史郎氏は3月6日、会見で、出馬の理由を

「今回の都知事選挙に立候補することを決意した最も大きな要因は、東京だけでなく全国各地の人たちから寄せられた『石原都政はもうたくさん』という悲鳴にも似た声です。社会的弱者に対する差別発言、都政の私物化、公私混同、側近政治、恐怖政治のような教育現場など、石原都政がもたらした数々の問題点を指摘しながら、その変革を必死になって願うメールや意見に接するうちに、誰かがこういった都政を変革するために立ち上がらなければならないと思うようになりました。」と表明しました

<浅野史郎氏プロフィール>

1948(昭和23)年2月8日生 59歳。

東京大学法学部卒業後厚生省に入り、社会局老人福祉課課長補佐、年金局企画課課長補佐を経て、北海道庁福祉課長を歴任。

1993年11月宮城県知事選挙に出馬し、初当選。3期12年を勤め知事職を勇退。

慶応義塾大学総合政策学部教授、東北大学客員教授、社団法人日本フィランソロピー協会会長を務める。

東京都議会議員(小金井市選挙区)

2007(平成19)年3月

西岡真一郎 都議会レポート 号外

●誰もが誇りを持てる東京の実現を

平成19年第一回定例会が3月9日に終了。東京都知事選挙を控えた今議会では、知事の政治姿勢が大きな争点となりました。差別発言。知事やその親族・側近らによる都政の私物化。新銀行東京や臨海三セクなどの経営悪化に見られる無責任体質。そして、政策的にも、オリンピック招致に頼るしかない都民感覚の欠如など、もはや石原知事に都政は任せておけません。こうしたことから、民主党は、19年度東京都一般会計予算に反対しました。私たち都議会民主党は、浅野史郎・前宮城県知事を支援し、誰もが誇りを持てる東京の実現に向けて、一致団結して取り組んでいく決意です。

●西岡真一郎、活発な委員会活動、視察研修の日々!

2月8日(木)には、オリンピック招致特別委員会にて質疑を展開し、3月2日(金)総務委員会では、会派代表の意見を開陳。1月から3月にかけても、都政に関わる課題で各地を視察し、研究する奮闘の日々。

●東京オリンピック招致 知事発言で赤信号点灯

民主党は、改めて、石原知事に、平和・核兵器に対する見解などを質問し、特に、「ヒトラーのベルリン・オリンピックに似ている」として、北京オリンピックのボイコット発言までしている知事の姿勢を追求しました。これに対して、石原知事は「オリンピックで独裁政権がついえることは歴史の原理」と、中国との関係改善を図るところか、火に油を注ぐ結果となっています。オリンピック招致を成功させるには、世界各国の支持を得る必要がありますが、民主党は、石原知事を先頭に立てての招致活動では、アジアをはじめとする広範な支持は得られないと考えています。

●経営不振の責任は誰に 新銀行東京は風前の灯火

経営悪化が進む新銀行東京。石原知事は「大手銀行から来た責任者が借り手の評価を見誤った」と責任転嫁していますが、この人事を決めたのは石原知事本人です。また、マスコミに対しては「何も中小だけの銀行じゃなし、どっかいい借り手があったら貸しますよ」などと路線変更も取れる発言をしたり、「つぶすわけにいかないのでテコ入れをした」などと、対策を講じたかのような発言をしています。しかし、自らの発言の真意を質しても、答弁は役人任せ。「石原銀行」は風前の灯火です。

●置き去りの子育て政策に 十分な支援を求め!

都の子育て支援関係の予算は、認可保育所以外は手薄です。

東京都政・平成19年第一回定例会報告 特集号!

8千人の待機児童、7万人とも言われる潜在的待機児童へのケアは置き去りです。民主党は、子育て家庭全体への支援拡充、また、認可保育所の2倍にもなる認証保育所の保育料に対する保護者負担軽減を19年度予算に盛り込むよう主張しました。

●掛け声だけで予算なし お粗末な住宅耐震化促進施策

都は「十年後の東京」で、都内住宅の耐震化率90%以上とする目標を掲げました。しかし19年度予算では、きわめて限定された耐震改修助成制度しか予算措置されておらず、民主党は、本会議・予算特別委員会で「これでは目標を達成できない」と厳しく追及しました。また、民主党は、震災時における都の中核機能を可能な限り維持・回復するため、超高層ビルである都庁舎の長周期地震動対策をすべきと指摘し、都はその必要性を認めました。

●優秀な医師の確保・育成を!がん難民ゼロへ強力に取り組め

現在、都立病院では救急患者の受入制限、妊婦の新規受付の中止、お産の取扱休止など、サービスの低下が顕著となっています。いずれも医師の確保が困難になっているためです。民主党は、このような事態の打開には、都立病院自らによる医師の育成や、給与・勤務条件など医師の処遇改善の必要性を主張しました。都は病院医師アカデミーの開設準備を進めていること、医師の宿直手当の大幅な改善などを明らかにしました。

都民の死亡原因1位はがん。がん検診受診率も全国平均以下です。日本は先進国の中でも救命率が低く、その向上は急務です。また病院や医師によって、医療の質がばらばらです。また、治療に納得できなかった人は53%との調査もあり、「がん難民」とも言われています。民主党は、がん検診受診率向上による早期発見早期治療、がん診療拠点病院の整備と医療機能向上、よりよい治療法の研究・普及に必要な「地域がん登録」の一日も早い実施を強く求めました。

●超高齢社会に危機意識欠乏 ロボット普及で現実逃避

10年後、都の支援を必要とする高齢者数は、14万人増えることが予想されます。今からしっかりと、高齢者の生活を支える基盤整備を進めなければなりません。高齢者の持ち家率が5割を切り、安心して暮らせるケア付き賃貸住宅や身近な生活圏域で必要なサービスを受けられる体制整備は急務です。石原知事は、今後の政策展開として、介護ロボットの普及や高齢者の就業機会拡充などを示しています。しかし、現実を直視した計画立案を早急に行うべきです。



西岡真一郎プロフィール

- 1969年武蔵野市生まれ・37歳/小金井市立南小・第二中学校、都立清瀬高校、獨協大学経済学部卒業/自民党本部事務局・新党さきがけ本部事務局・最年少の小金井市議会議員2期8年(無所属)、議会運営委員会委員長等を歴任。青年会議所や薬物乱用防止等の多数の地域活動に従事。2005年7月の東京都議会議員選挙にて初当選(民主党公認)。
- 特技:阿波踊り、趣味:映画鑑賞、スポーツ:トライアスロン
- 地域活動:小金井青年会議所監事、小金井市トライアスロン連合会長、子ども達を薬害から守る実行委員会事務局、小金井新能理事等を務める。

【西岡真一郎の役職・担当 3月9日現在】

- 常任・特別委員会・審議会:総務委員会副委員長、オリンピック招致特別委員会委員、東京都薬事審議会委員、東京都生活衛生審議会委員
- 会派:議会改革プロジェクトチーム座長、島嶼振興等調査会委員 他

●小金井事務所連絡先

〒184-0004 小金井市本町1-6-2 アリスビル1F
 電話 042-386-5771/FAX 042-386-5773
 mail:DZG01370@nifty.com